

～逆境の時こそ強い産学連携を～

名古屋工業大学理事・副学長 産学官連携センター長 増田秀樹



名古屋工業大学理事・副学長
産学官連携センター長
増田 秀樹

一方大学も、特に資金に恵まれているわけでもありませんが、資金のないなりに、各研究者の所属する学会が求める最先端研究に応えようと、科学的興味を赴くままに最先端の更に先端を目指して研究を遂行してきました。そのため大学には多くのシーズという財宝が眠っています。しかし、このシーズは、地球の奥深くに眠っている、探すのも困難なくらいに小さいダイヤモンドのカケラに等しいのです。大学の研究者が見いだしてきたシーズ(研究)と企業のニーズがぴたり合うのは、2つの剣山を合わせるのに等しい仕事だと思います。産学官連携センターは、産業界との間に入ってその一致点を探し出し、多少修正し、世の中の役に立つようにするのが一つの大きな役割だと考えています。また、時代の要請を受けた国プロを探し出し、大学と産業界からの共同提案をアレンジすること、知的財産権の円滑な取り扱いの補助等々を行っています。

今後とも、研究協力会を窓口协会会员の皆様と本学が良きパートナーシップを築き、この地における新産業の開拓に貢献致したく考えておりますので、何卒、よろしくご理解とご協力のほどをよろしくお願い致します。

日頃は、名古屋工業大学研究協力会の皆様にはご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。本年4月より、名古屋工業大学産学官連携センター長を務めさせて頂いております増田でございます。

最近はどこを向いても聞こえてくるのは「不景気ですね」の言葉のみが横行する毎日で、一つの挨拶代わりにして定着しつつあるようです。しかし、日本人というのは古来より、台風、地震、火山、大雨、風雪、土砂災害、灼熱の夏に極寒の冬と、絶えず日本列島を襲う自然災害や異常気象に耐え、かつ立ち向かい戦ってきました。そして日本人はこれら災害を克服しようと知恵を出し合い、逆境に立ち向かい戦って来たと言えます。逆境に置かれても知恵を出し、いち早く立ち直ることができるのが日本人だと私は信じています。私たちは生まれながらにしてそういう能力を持っているのです。産学官連携センターはこの知恵を産学官の間で効率よくコーディネートするのが使命だと

思っています。20年ほど前にバブルが弾け、その後不景気へまっしぐらの状態が始まりました。基礎研究に惜しみなく資金を投入してきた大手企業の多くも、基礎研究に十分な手が回らないまま今日に至っているのが現状でしょ



産学官連携センター

第24回技術懇話会(ライフイノベーション・ファクトリの実現に向けて)開催報告

第24回の技術懇話会を、去る平成24年7月24日(火)に交流会と合わせて講堂会議室にて開催。一見、話題提供の内容が多岐にわたる感がありますが、発表内容の仕掛けにより、技術をベースとした、人と人とのつながりを実感することができた技術懇話会となりました。参加者は49名でした。

【体験者急増! 動力のいない受動歩行で拓く軽やかな歩行支援】 佐野明人 教授

(キーワード:歩行支援、安心・安全、無動力・簡単機構)

動力によるパワーアシストが全盛の中、待ち望まれた無動力歩行支援機を開発中です。受動歩行ロボット技術を基盤とし、無動力でありながら、軽やかで多様な受動アシストを目標としています。簡単装着、軽快使用、しっかり効果を心がけています。また、力学原理・メカニズムに納得した上で、安心して使えるようにします。これにより、自然に歩ける感覚を呼び起こし、リハビリに対するやる気を引き出します。将来、ライフイノベーション・ファクトリを開発し、本支援機を気軽に体験できる場を提供し、人と人のつながりを大切にしていきたいです。



【快適安心まちづくり!多世代がつながる環境デザイン】 伊藤孝紀 准教授

(キーワード:ユニバーサルデザイン、緑化計画、コミュニティ創造、デザイン戦略)

21世紀型まちづくりのデザインには、スクラップ・アンド・ビルドの開発ではなく、既存の場もつ環境に新しい意味を付加したり、コミュニティの再生を促すように活かしていく「演出」という視点が重要である。私が提唱する「環境演出」は、既存の都市や地域がもつ資源を活かしながら、建築などハードだけでなく人間の心理や行為などカタチのないものを含んだ横断的なデザインである。そこで、市民一人一人、企業と行政、協議会やNPOなど小さな活動を連携させ、多世代が共有できるコミュニティの創出と、短期的な活動を長期的な全体像へと結びつけ新しい価値を産み出すプランニングの研究結果と実践事例を提示した。



研究協力会事務局より

名古屋工業大学研究協力会は、6月8日、学内講堂会議室にて第13回総会を、また、講堂ホールにて特別講演会を行いました。石丸典生研究協力会会長および高橋実学長よりご挨拶を頂き、研究協力会の活動に係る各議題を審議したところ、事業計画、予算等承認事項については全て承認いただくと共に、報告事項についても、全員異議なく終了となりました。

去る6月の総会におきまして、前任の近藤事務局長の後を引き継ぐことになりました。当研究協力会は企業の技術・開発ニーズと大学の研究シーズを結びつけるお手伝いをするのが、基本的な役割と聞いております。多様な事業を通じて、学・産の交流を主目的とした生産性本部での勤務経験を活かして、会員の皆様と名工大との橋渡しに努めて参りますので、何卒よろしくご指導、ご協力のほどお願い申し上げます。

事務局長 北川敏彦

3年4ヶ月の間、事務局長として、お世話になり本当に有難うございました。特に温かい方々に出会えたのが印象的でした。8月より、間接的にも皆様のお役に立てられるよう海外の産学官連携状況を見てまいります。会員、役員の方のご繁栄を祈念しつつ、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

近藤慶子

今後の事業予定

名工大・名市大合同テクノフェア2012

1)名駅キャンパスフェア by 名工大&名市大 11月7日(水)
会場:名古屋駅(中央コンコース)

2)名工大テクノフェア 12月12日(水)
会場:名工大キャンパス

(講堂会議室、2号館、研究室)

第25回技術懇話会 12月上旬

【入会申込お問合せ先】

名古屋工業大学研究協力会 事務局

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 名古屋工業大学 産学官連携センター内
Tel, Fax: 052-735-5538 E-mail:kyoryoku-pal@adm.nitech.ac.jp

*研究協力会HPもご覧下さい。 <http://partner.ccr.nitech.ac.jp/> (行案内・入会案内・事業報告は、このサイトで見る事ができます。)
*ご担当者や連絡先 (Tel, Fax, E-mail) が変更になった場合は、ご一報ください。

平成24年8月25日発行